

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

## 1 児童の実態

### (1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H31 入学 現6年生	県	全国	県	全国
	(4月)	(4月)	(4月)	(4月)
	64.5	69.0	47.9	63.0
	(0.96)	(1.05)	(0.78)	(1.02)
R6 正答率の全国比		1.02		0.99

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段( )は県平均を1としての比較。

◎「令和6年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

### (2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語、算数ともに県平均・全国平均と同等か上回る正答率であった。
- ・国語は、「思考力、判断力、表現力」の「書くこと」において、県平均・全国平均を大幅に上回った。特に、「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く」設問において、県平均・全国平均ともに30ポイント以上上回った。しかし、「知識・技能」の漢字の使い方において課題が見られた。
- ・算数では、「思考・判断・表現」において、県平均・全国平均を上回ったが、「知識・技能」の「数と計算」における除法の計算で課題が見られた。
- ・意識調査では、「自分には、よいところがあると思う」と回答している割合は県や全国と比べて高く、自己肯定感が高い児童が多い。また、平日、休日ともに家庭学習の時間が1時間以上と回答している割合は県や全国と比べて顕著に低い。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・国語においては、言葉や漢字の意味に着目した指導を行い、習得した漢字を使って文章を書く、使い方を考えさせる等の実践を行い、既習事項の定着を図る。
- ・算数においては、一つの問題をじっくり考えさせ、「なぜその考え方をしたのか」「相手の意見とどこがどう違うのか」を問い、解き方の意味を考えさせる等、自分の考えを深めたり広げたりする場を設定するようにする。
- ・1人1台端末を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- ・個人差が見られることから、実態に応じた個別指導を行う等、指導の工夫を図っていく。

### (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・毎月、「生活リズムチェック週間」を設定し、家庭と連携を取りながら、よりよい生活習慣、学習習慣の定着を図る。また、児童の実態に合わせた家庭学習の課題の提示、内容の工夫を行い、ICT機器の活用を含めた家庭学習の充実に努める。